

## 鈴鹿市環境審議会（第4回）議事要点録

### 1. 名称

令和4年度 第4回鈴鹿市環境審議会

### 2. 日時

令和4年8月29日（月）15時30分～17時30分

### 3. 場所

鈴鹿市役所 本館12階 1201会議室

### 4. 参加者

鈴鹿市環境部 環境政策課（7名）

鈴木環境部長、佐竹環境部次長、岩寄課長、駒田主幹兼環境政策GL、椎名主査、中西副主査、眞弓副主査

鈴鹿市環境審議会（10名）

甲斐 穂高、片岡 淳一、坂上 優子、杉山 範子、曾山 信雄、田中 毅、土屋 和義、朴 恵淑、山村 直紀、長末 貴大

エヌエス環境（株）（3名）

都甲、間宮、秋田

※傍聴者 0名

### 5. 式次第

- 1 開会
- 2 会長の挨拶
- 3 本日の審議事項
- 4 議題
- 5 閉会、その他

## 6. 配布資料

- ・ 審議会事項書
- ・ 令和4年度 第4回鈴鹿市環境審議会 座席表
- ・ 資料 1-1\_鈴鹿市しあわせ環境基本計画 案
- ・ 資料 1-2\_目標環境像について
- ・ 資料 2-1\_鈴鹿市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）案
- ・ 資料 2-2\_本市の将来イメージ（イラスト）について

## 7. 内容

以下は、議事内容を要約したものである。

※（ ）は身振りや文意から補完した部分

事務局：（鈴鹿市しあわせ環境基本計画 案 について説明）

朴会長：質問コメントはいかがか。

（資料 2-2 を示して）我々の言いたい事、あるいは鈴鹿がこのような町になるということを一言で示すのは、イラストではないかと思う。このイラストは、これから最終の仕上げに入るが、皆様のご意見をいただいて仕上げたいと思っている。

（資料 1-1 を指して）12 頁（鈴鹿市の位置図）は、もう少し大きくしても良いと思う。このスケールだと現状で限界だとは思いますが、鈴鹿の自然がいかに豊かか、山川海をもう少し見やすくできないか。これについて、皆様のご意見をいただきたい。

本文の内容はもちろんだが、9 頁の SDGs の図や、33 頁のイラストについてもいかがか。

土屋委員：大分、読みやすくなったと感じる。アンケートの結果が、解りやすくなったと思う。18 頁の図は、アンケートの結果を将来の重要度、現状の満足度に合わせて落とし込んだと思うが、現在のグラフだけでは、この中のどこを重点的に進めるか、わかりづらいと思った。もう少し視覚的にできれば良いと思うが、いかがか。

甲斐委員：同じ考えである。

理想は、左下の現状の満足度が低くて、将来の重要度が低い問題を、解決しないといけない。それを、どのようにして右上（現状の満足度が高く、将来の重要度が高い）に持っていくのか。右上に持っていきたい項目が、おそらく、市民や鈴鹿市が抱えている問題である。その問題を解決するために施策を展開すれば、重要度も満足度も高くなる。27 頁、28 頁（の基本方針と施策）にリンクされていると、とても分かりやすいと思う。

18 頁の図は、アンケートの結果を踏まえた重要なポイントである。この結果と

27 頁、28 頁（の基本方針と施策）がリンクしていない。浅く広く種々の施策を展開していて、強弱が無く、政策の目玉が見えにくい。どれが 1 番 2 番という形で、強みを出すと良いと思う。

土屋委員：こうしたいという概念があって、その中の順位が、この図で一目瞭然に分かると良い。

事務局：調整する。

甲斐委員：この絵（資料 2-2）は、全部良いところ取りをしているように見える。どれが目玉なのか分からない。

長末委員：（資料 2-2 を示して）このイラストは、全ての文言が現状を伝えている様なイメージを持った。この後に、鈴鹿市としての具体的な施策を書いていけば、より分かりやすいと感じた。

事務局：このイラストは、2050 年の姿を映している。取り組み例などを記載した方が良いか。

朴会長：18 頁の分析結果は、現在の鈴鹿市民の一つの考え方であり、近未来に対する期待だろうと思う。13 項目について、鈴鹿市の強みと弱み、やっていこうとすることをもう一度書くことによって、ある程度、方向性が見えるのではないか。

坂上委員：18 頁の色分けの意味は何か。

事務局：赤は、現状の満足度が低いにもかかわらず重要度が高い項目を示している。省エネの取組や、再エネの導入が、比較的現状の満足度が低いにもかかわらず重要度が高いので、基本方針の 1 番にして、「脱炭素、カーボンニュートラル」を進めていきたい。文章では示したが、ご指摘の通り、一目で解りづらいので改善していく余地がある。

田中委員：赤い印は、取り組みたい最重要項目であるか。このマトリックスは、左上から右上に持っていききたいというのが正しい理解で良いか。

事務局：そうである。

坂上委員：グレーは重要度的には低いのか。

事務局：左下は、将来の重要度に関しては比較的低い。

朴会長：比較的低い項目よりも、重点的な施策はエネルギーに持っていくということか。

事務局：そうである。

朴会長：例えば、項目 3（再生可能エネルギーの導入に関する支援制度の充実）は、鈴鹿市の課題というよりは、むしろ国の課題でもある。鈴鹿市が、国とは関係なく支援するのであれば、一気に上がってくる可能性もあるが、様々な工夫をしながらやっていくことになるので、仕方がないという感じがする。

坂上委員：17 頁の満足度の赤枠の定義は何か。項目 9（身近な公園や街路樹のみどりの整備）が含まれていないのはなぜか。文章は、「6 割以上の方が」になっている。項目 9 は 6 割を超えている。

事務局 : 6割以上を赤枠にしている。項目9は赤枠に入れることとする。

朴会長 : オンラインでの参加の委員の皆様、どうか。

杉山委員 : (資料2-1を指して) この資料の中で、鈴鹿らしさではあると思うが、モータースポーツの町ということで、多くの部分にモータースポーツのまち宣言の要素が入っていると思う。モータースポーツの街づくりや、モータースポーツ都市宣言を参考とした目標がたくさん入っているが、「F1が目指すカーボンニュートラルの戦略」がはっきり見えない。多く引用されているが、どのようなものを目指しているのかが解りにくい。ちなみに、F1が目指すカーボンニュートラルのまちとは、海外ではどのようなものを目指しているのか。

朴会長 : 私が、COP26で感じたことだが、企業の取組みはたくさんあるが、町ぐるみで何かするというのは、あまり聞いたことがない。

杉山委員 : 鈴鹿市の未来像として考えたときに、これがどこまでどういう意味があって、入れているのかを、整理した方が良いと思う。

事務局 : 区域施策編の38頁では、基本方針1で、「エネルギーの有効活用を図る」を章立てしており、(これに対応する)F1が目指すべきものというのは、レース会場の電気を100%再エネ由来にすることである。F1の目標に関連する鈴鹿市の目標として、4つの目標を考えた。鈴鹿市の魅力は、「モータースポーツのまち」である。F1が開催される町ということから、F1の取組みとリンクすることで、鈴鹿らしさを出そうと考えた。

朴会長 : いかがか。

杉山委員 : その部分から来ていることは分かった。

違和感をうまく説明できないが、F1が目指す戦略を、区域施策編の取組みのベースに入れてくるという整理の仕方か。

もちろん、F1の戦略が素晴らしいからそれを、モータースポーツのまちである鈴鹿市が、取り入れていく姿勢は、鈴鹿市らしさだと思う。

例えば、地域振興策や観光のためのまちづくり計画の中ならば、すんなり入ってくると思うが、環境分野の地域施策編の中で、腑に落ちてこない感じがある。

F1やモータースポーツを売りにしているまちが、このようなまちづくりや計画を策定しているのならば、参考に教えていただきたい。

事務局 : 海外の他市の事例については、解らない。

朴会長 : 杉山委員、豊田市はどうか。

杉山委員 : 豊田市は、主な産業はトヨタ自動車によるところが大きい。トヨタ自動車は、事業者として、2050年にカーボンゼロという計画を早くから打ち出している。市は、方向性は同じ計画を別途策定している。

長末委員 : トヨタのウーブン・シティの情報を参考にしたら良いのではないかと思う。

杉山委員 : ウーブン・シティは静岡だが、トヨタ自動車関わっている。企業が、企業の取

組みとしてやっていくのと、自治体が、自治体の取組みとしてやっていくことは、方向性は同じだが、どういうものを自治体の計画や取組みとしてやっていくか。

鈴鹿市としてこれで良いならば、これで結構である。

事務局：鈴鹿市はF1が開催される都市として世界的にも知名度があり、そこが鈴鹿市らしさである。そのような理由で（F1が目指すカーボンニュートラルの戦略を）持ってきた。

F1を呼び込むためには、F1が目指すカーボンニュートラルの戦略を実行していかなければならない。その一つとして、レース会場の再エネを100%にするという戦略がある。100%再エネを使っていくのであれば、「市全体を再エネ100%にしなければならない」という思いで、市全体での再エネ100%を推進していきたい。

再エネを市外から購入するのは別の話だが、「レース会場で100%再エネを使用するのは、市全体で積極的に応援していきたい」という思いである。

杉山委員：可能ならば、他のモータースポーツのまちで、どのようなことをしているのか情報収集すると良い。

朴会長：一番大切なことである。

レース会場のエネルギーを100%再エネにするのは簡単ではない。

鈴鹿サーキットでの取組みとして、ワンウェイプラスチックをなくす取組みはよく出ているが、サーキット会場全体を再エネにする取組みはあまり知られていない。この実行計画ができることによって、応援する形になれば良い。

土屋委員：相当チャレンジングである。レース会場は良いが、移動手段もゼロカーボンにするのは、不可能に近い話だと思う。そこを目指す、F1の精神をもらいたいということか。

事務局：F1は集客効果があり経済効果が高いので、継続してF1を鈴鹿市に呼び込まなければならぬ。F1を鈴鹿市に呼び込むために、環境の側面から、「F1のカーボンニュートラルに向けた戦略に賛同する」という形で、しっかりと支援していきたい。かつ、F1が毎年、鈴鹿市で開催されるようにしていきたい。

土屋委員：37頁のF1の戦略が、この後全てに係るならば、もっと最初のほうに持ってくると、全てが繋がっていくと思う。

事務局：調整してみる。

朴会長：そのような工夫が必要である。

土屋委員：世界中に「鈴鹿市」の名前が売れているのは、鈴鹿市民として誇りに思っている。

朴会長：（環境基本計画と、区域施策編を）両方一緒に議論する。

坂上委員：環境基本計画の27頁。最初に拝見した時に、申し上げたが、基本方針の4、循

環型社会について。

循環には、森林や自然環境など、様々な意味がある。ゴミに特化するならば、「循環型社会とは限られた資源を使って、リサイクルなどの循環をさせて、継続的に将来にわたって使用することを目指す社会」など、注釈があると良い。

事務局：環境基本計画の章立てに関しては、廃棄物の循環型社会にしたい。注釈を入れるようにしたい。

甲斐委員：一般廃棄物処理計画のことを考えると、現状の基本方針の4になる。

坂上委員：このイラストにも循環が分かるようなものが入っていれば良いと思う。

朴会長：少しでも我々が考えるところに近づける形で行きたいと思うが、庁内の調整も必要である。

(環境基本計画の) 34 頁の地域新電力のロゴマークは決まったか。ロゴマークは無しか。

事務局：作る予定であるが、まだ決まっていない。(地域新電力会社の) 名称を決定してから、連想されるロゴを作成する。

坂上委員：公募で決めるのか。

事務局：時間的に余裕が無いため、市とパートナー事業者で決めたい。

甲斐委員：環境基本計画の 25 頁の目標環境像はどのようなものが入るのか。

事務局：現在の環境基本計画では、「豊かな環境のまち 鈴鹿 子供たちにつなぐ持続可能な社会を目指して」である。

甲斐委員：先ほどからの議論で、F1 の話が出ている。目標環境像の中にも、F1 に関連する要素が入ってくると思う。

25 頁の『SDGs との関係性を考慮し、「〇〇」と「〇〇」をつなげるキーワード』の〇〇に、今議論している「F1」や「カーボンニュートラル」「脱炭素」などのキーワードが入ってきて、それが落とし込まれた、目標環境像になるのか。

事務局：キーワードは、皆様のお手元に配布している。

甲斐委員：キーワードを基に絵が入るのか。

事務局：絵は入らない。キャッチフレーズを入れる。

甲斐委員：承知した。

坂上委員：目標環境像「豊かな環境のまち 鈴鹿」の、豊かな環境とは何を指すか。漠然としていて解らない。

事務局：自然環境の意味合いが強いのかもしれない。

事務局：現在の環境基本計画の 35 頁の環境目標像を定めた部分を読み上げる。

朴会長：甲斐委員や杉山委員の発言の様に、F1、カーボンニュートラルなど、意見はあるか。

土屋委員：先ほどから出ている、F1 やモビリティをつなぐのであれば、文言をそのままにし、バックにチェッカーフラッグをつける。それだけで、F1 等の言葉が入っ

ていなくても、良いのではないかと思う。文字で入れようと思うと、結構つらくなるのではないか。

坂上委員：（資料 2-2 を指して）それはこのイラストに反映されるのか。

事務局：それは、区域施策編に入れるイラストである。

坂上委員：カーボンニュートラルであり豊かな環境ということではないか。

事務局：大きな環境としての環境基本計画があって、その中の、脱炭素部分を区域施策編で推進する。

朴会長：言ってみれば、環境基本計画は環境の原本みたいなものである。計画期間はいつまでか。

事務局：2023 年の 4 月から 2031 年の 3 月までである。

朴会長：皆様いかがか。

事務局：今回策定する計画は、第 3 期である。第 2 期の目標像は「豊かな環境のまち 鈴鹿 子どもたちにつなぐ持続可能な社会をめざして」である。因みに、第 1 期の目標像は「豊かな緑と澄んだ水 環境を大切に心がひきつがれるまち すずか」であった。

朴会長：第 3 期に、第 2 期の目標像を引き継がなくても良いのではないか。

「しあわせ環境基本計画」の「しあわせ」は今期も入れるのか。

事務局：（計画の名称については）現状通りとする。

坂上委員：目標がだいたい達成されて、次の目標になったのか。

事務局：環境基本計画では目標年度が決まっている。その目標年度を迎えたため、次の計画を策定した。今回策定する第 3 期で、2 期の基本施策から引き継いでいくものもある。

坂上委員：目標が浸透してきたため、次の目標を立てるのか。

事務局：そのような考え方もあると思う。

朴会長：カーボンニュートラルに「トップランナーでいくぞ」という感じではどうか。

事務局：カーボンニュートラルに特化するのか。

朴会長：カーボンニュートラルでも良いし、持続可能でも良いが、「トップでやっていく」という考えはないか。

甲斐委員：（第 1 期、第 2 期の目標像は）10 年前と 20 年前の、環境のトレンドの言葉が入っていると思う。10 年前は「持続可能な」が流行った。20 年前も「豊かな自然」は 1 つのキーワードであったと思う。それと並列で考えると、今のトレンドは会長の発言にもあった、「カーボンニュートラル」や「脱炭素」であると思う。私は、このような言葉が入っても良いと思うため、会長の意見に賛同する。

朴会長：常に我々は 10 年先じゃなくて、20 年先、前を見ていきたいと思う。（甲斐）委員どうか。

甲斐委員：2050 年ゼロカーボンは、30 年先の目標である。この目標に向かって今から、「カ

ーボンニュートラル」や「脱炭素」を入れるのは、今後 30 年この目標が維持されると思うので、それぐらいの強い言葉を入れても良いのではないかと思う。

朴会長：皆様いかがか。

坂上委員：カーボンニュートラルにすることで豊かな自然につながっていくので、上の段に、「豊かなとか自然」も入れて、最後にカーボンニュートラルのまち鈴鹿とするのはどうか。

甲斐委員：シンプルでいいと思う。

田中委員：流行を取り入れると、「持続可能な」はサステイナブルになるか。

朴会長：第 3 期も、「豊かな」は生かすか。

甲斐委員：私も、「豊かな」とは何か考えている。

朴会長：本日このキャッチフレーズを決めねばならないか。

事務局：次回の審議会までに決まれば良い。

環境基本計画の 3 頁に、条例に基づく基本理念を記載している。これも参考にさせていただければと思う。

区域施策編の方でも、前回の振り返り等の説明がまだあるが、いかがか。

朴会長：区域施策編の説明を先に行い、目標環境像についてはまた議論する。

事務局：（区域施策編説明）

朴会長：（2013 年度比の温室効果ガス排出削減量）50%は大変な野心的な目標であると思うが、我々としては 50%を絶対キープしていきたい。それに対して、皆様も異論は無いと思う。森林の吸収量をどう考えるか、広い意味での循環型社会を考えたときに、たとえ 0.5%でも加えていければ有難いと思う。

時代の流れを汲みながら、やっていることもわかっている。鈴鹿市のシミュレーションの結果の正確かどうかが気になるのが一点と、公共交通機関の低炭素とあるが、脱炭素ではないか。

事前に提出した、各計画に対する意見についてはどうか。

甲斐委員：気候変動の予測シナリオは、第 6 次評価報告書のシナリオと、第 5 次評価報告書のシナリオがあるが、第 5 次評価報告書のシナリオで記載するとの回答であったので、それはそれで良い。

4R の順番については、環境基本計画の説明で回答をもらっている。

山村委員：太陽光発電の、発電量と設備容量の区別についてであったが、今回の資料は、はっきりとしているので大丈夫である。発電量ベースで 13%を、将来 16%にするのは問題ない。

朴会長：その他に気になる部分はあるか。

目標は、2030 年までに 50%削減でよろしいか。

事務局：目標として審議会の中で、定めていただけるなら、それに向かって取り組んでいく。



朴会長 : はい。

事務局 : 目標像については、各委員が事務局へメールをいただき、それを委員全員に共有するようにメール配信する。

また、簡単な文章の精査は、事務局の方でも実施する。

次回、第5回環境審議会の候補日は9/27(火)、10/3(月)、10/6(木)で、いずれも午後に予定している。本内容を、本日中にメールで配信するので、今月中に返事をいただきたい。

次回の審議会で、両計画の素案を決定したい。

朴会長 : (環境基本計画の) 18 頁、アンケートの結果に係る部分を、解りやすくすること。

事務局 : 事務局内で精査して、報告する。

朴会長 : 皆様いかがか。(締め言葉)

事務局 : ありがとうございました。(締め言葉)